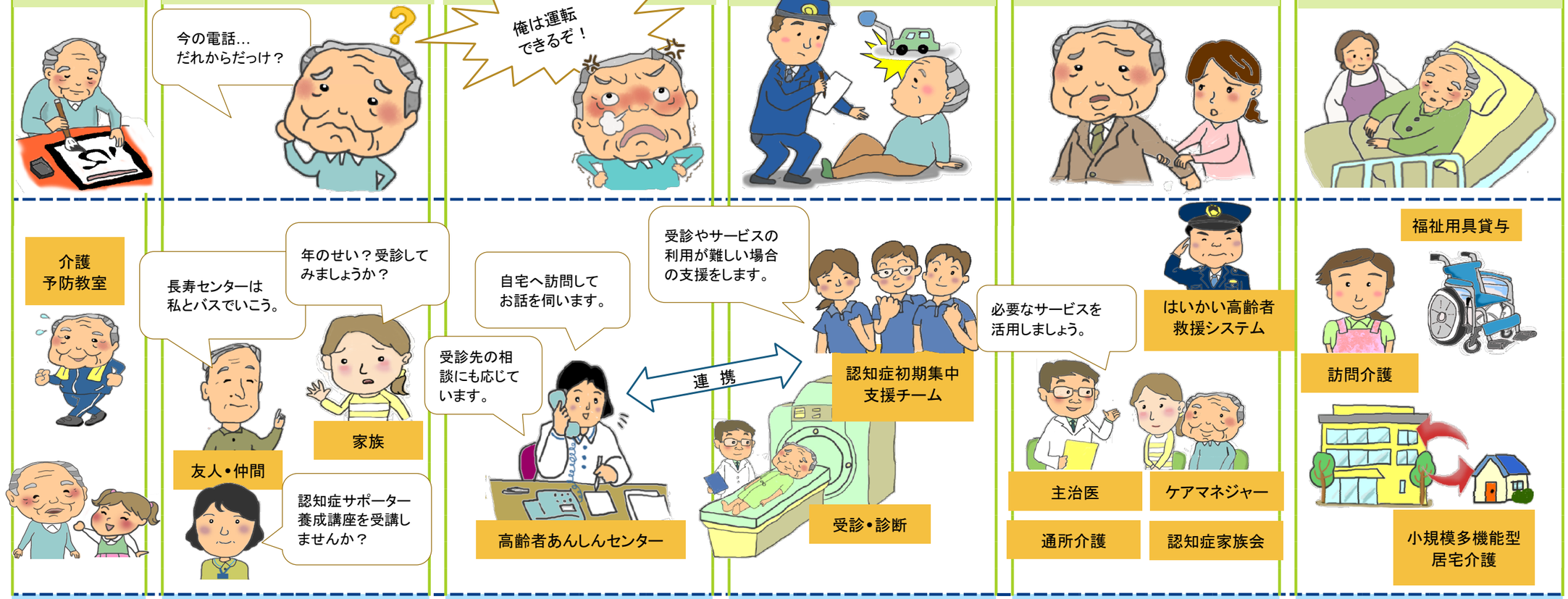
認知症の進行と
具体的な支援の例①

人生七転び八起き『家族と暮らすの太郎さんの例』

代表的なアルツハイマー型認知症の進行例

進行の例	自立	認知症の疑い	認知症を有するが日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助け・介護が必要	常に介護が必要
本人の様子の例	地域役員や友人と活動している元気な太郎さんです。	同じことを何度も聞き「あれ？」と思うことがありました。安全運転の太郎さんだったのに荒っぽい操作に家族は心配しています。	家族から「危ないよ！」と指摘されると怒りだします。すぐイライラして性格が変わり、家族も困惑しています。	車で出かけ、なかなか帰ってきません。どうやら道が分からなくなってしまったようです。愛車は廃車となりました。	運転の心配はなくなりましたが、「仕事にいく」と歩いて出かけてしまいます。家族は目が離せず負担が大きくなっています。	会話も少なくなり、寝て過ごすことが多くなりました。トイレや食事のお世話も必要になりました。
支援の例	介護予防教室	長寿センターは私とバスでいこう。 年のせい？受診してみましょうか？ 家族 友人・仲間 認知症サポーター養成講座を受講しませんか？	自宅へ訪問してお話を伺います。 受診先の相談にも応じています。 高齢者あんしんセンター 連　携	受診やサービスの利用が難しい場合の支援をします。 認知症初期集中支援チーム 受診・診断	必要なサービスを活用しましょう。 はいかい高齢者救援システム 主治医 ケアマネジャー 通所介護 認知症家族会	福祉用具貸与 訪問介護 小規模多機能型居宅介護
ポイント	・適度な運動や食事をとり、家族以外の人とも会話を心がけましょう。	・これくらいで…と思っても心配や不安があれば相談しましょう。 ・1頁のチェックリストや2頁の症状を参考にしてみましょう。 ・家族が認知症サポーター養成講座を受講し、認知症について正しく理解することも大切です。	・早めに受診や相談ができるように家族で協力しましょう。 ・本人が拒否的な場合は、家族だけで受診や相談することも1つの方法です。	・専門機関に相談し適切な治療を受けましょう。認知症の診断を受けた人は「何もできない」わけではありません。誰かが全体に目を配り、その場に合わせた声かけをすれば、その先は自分でできることがたくさんあります。 ・本人の思いや意向を聞き、家族と支援者が連携し、日常生活の見守り体制を整えましょう。	・これまでにない症状に戸惑うこともあるかもしません。家族で抱え込まず、近所の人にも状況を伝えて協力を得ることも大切です。 ・対応方法や適切なサービスの利用については、ケアマネジャーと相談しましょう。	・本人との時間を大切にしながら、適切なサービス利用で、息抜きをするなど介護疲れをためないように工夫しましょう。 ・認知症家族会等へ参加して、情報を得るだけでなく、自分の介護経験を話すこと、それが地域の支え合いにつながります。介護者の皆さんの経験を地域で活かしましょう。



認知症の症状や状況により支援方法は様々です。ひとつの例としてご参照ください。